

## 【観光遺産産業化ファンド】 株式会社梅小路ハイラインに対する投資実行について

株式会社地域経済活性化支援機構（以下「機構」という。）は、株式会社観光産業化投資基盤を無限責任組合員とする「観光遺産産業化ファンド（以下「本ファンド」という。）」にて、本日、株式会社梅小路ハイライン（以下「梅小路ハイライン」という。）への投資を実行したことをお知らせいたします。

なお、今回の投資は、本ファンドの第21号案件となります。

梅小路ハイラインは、「梅小路京都西駅エリア」（※1）内の西日本旅客鉄道株式会社（以下「JR西日本」という。）が保有する「鉄道高架空間」（※2）活用によるエリア活性化と発展を目的として、JR西日本グループの京都駅ビル開発株式会社によって昨年設立されました。本ファンド及び本ファンドからの投資先である株式会社梅小路まちづくりラボ不動産が出資を行うとともに、本ファンドより非常勤取締役の派遣を行います。

梅小路ハイラインは第一期開発事業として、日本初の廃線高架上常設店舗「FUTURE TRAIN」（※3）の開業を2025年夏に予定しています。また、「京都駅西部エリアにおける“鉄道高架空間の活用によるエリア活性化”のための連携協定」（※4）（以下「本連携協定」という。）に参画し、連携協定先とともに鉄道高架空間の有効活用を推し進め、①クリエイターやスタートアップ等の集積・交流のための拠点等の整備、②エリア内外イノベーション拠点等との連携・交流、③エリア情報発信の強化に繋がる事業等を展開してまいります。

※1 「梅小路京都西駅エリア」：京都市下京区朱雀宝蔵町および朱雀分木町に立地する京都市中央卸売市場と市場場外周辺、梅小路公園周辺、京都リサーチパーク地区を含む七本松通りの東西、島原周辺等と定義

※2 「鉄道高架空間」：2019年に開業した「梅小路京都西駅」設置に伴い廃線となった梅小路短絡線の高架空間及び「梅小路京都西駅」から「丹波口駅」間のJR嵯峨野線高架下をいう

※3 「FUTURE TRAIN」：梅小路京都西駅エリアが目指すクリエイティブ・タウンのシンボル拠点となることを目指して開発された、新たな日本文化体験ができる新業態店舗。梅小路ハイラインが建物を建設・所有し、(株)DDグループがテナントとして入居し店舗運営を行う

※4 西日本旅客鉄道(株)、京都駅ビル開発(株)、(株)梅小路ハイライン、(株)DDグループ、京都リサーチパーク(株)、(株)梅小路まちづくりラボ、(株)京都フィナンシャルグループ、京都信用金庫、京都中央信用金庫、(株)地域経済活性化支援機構及び京都市の11者により、3月21日に連携協定式典を開催予定。

本ファンドは、今後も各地の地域事業者への出資や経営支援を行うことで、観光産業その他の地域産業の発達を促進し、地域経済の活性化に貢献してまいります。

